

## サロンコンサート 「シューマン詩人の恋」マティアス・ラインタラー&森尚子



総会終了後、ハイネの詩と  
シューマンの甘美な楽曲  
「シューマン詩人の恋」全  
18曲をヨーロッパで活躍  
中のお二人が演奏。  
115名の聴衆はマティア  
スさんの美しいテノールと  
息の合った森さんのピアノ  
伴奏、そしてお話や映像で



豊かな想像の世界に誘われました。

森さん、マティアスさんとも親交がある平成音楽大学の出田敬三学長  
が花束を贈られ、「学識豊かな森さんの解説と本場の歌手のドイツ語を  
生で聴けるこのようなコンサートは大変貴重な機会。宇土は文化の發  
信地で素晴らしい」と語って頂きました。



会員の大橋敏雄さんが『契りきな つれづれなるままに』を出版

されました。

熊日新聞への投稿も数多く、戦争体験の語り部としても活躍されて

いる大橋さんの日々の思いや出来事がつづられています。重みのあるものから楽しいものまで収録されている中、素敵なお夫婦像が浮

かぶ一文をご紹介します。

逆さまつげ

「お父さん、ちょっと見て。また逆さまつ毛の生えてきたごたる」

夫婦生活を55年も続けていると、お互い身体のあちこちでいろんな不具合が表れてくる。

「どれどれ、すんならちよっと診てやろか」。「にわか医者どん」になりきった私はおもむろに治療道具を手にする。何のことはない。道具と言つても、度の強い老眼鏡と毛抜きである。「まぶたの母」ならぬ家の右目の上まぶたの裏を返してみると、あるある。通常は上向きに生えていなければならないまつげが横や下向きに2、3本生えている。へそ曲がりに生えているのを毛抜きで引き抜くと、本日の治療は終了。待ち時間も治療代もなしだ。

翌朝、隣に寝ている愛妻から嬉しい言葉を掛けられた。  
「目の玉のゴロゴロして涙が出ていたのがすつきりした。気持ちのヨカ。ありがとね」  
「何の何の。たったこれしきのこと、礼も言わんちやヨカ」  
猛暑が連日続く中、幸いにしてこのように平穀に夫婦生活を続けて  
いられる。天の神様にだけは礼を言つとこ。

市民会館にも閲覧用がありますので  
どうぞご覧ください。

(平成24年9月7日)



No.33 2018.5.25 発行

# 文化通信

NPO法人  
宇土の文化を考える市民の会

## 毎日の暮らしに寄り添う文化の力 理事長 田代 重臣



5月19日に、ご来賓・多くの会員の皆様にご出席いただき本会総会を開催し、発足17年目をスタートすることができました。役員、市民会館職員一同も本年度の活動にむけて心を新たにしているところです。

さて、先日新緑に誘われ、庭先で「くまにちあれんじ」をみていたら「ていねいに暮らして、豊かに過ごして、今日も笑って」の言葉が目に留まりました。目先のあわただしさや些細なことでの心がいらだち、つい自分を見失いがちな毎日ですが、本当に一步一步毎日をていねいに楽しみ、こころを自由に明るく過ごしたいものだと思いました。

また、その意味でも文化の果たす役割は非常に大きなものがあると思います。本会の活動が、地域のみなさんの豊かで前向きに明るい一日一日の暮らしに寄り添い心地よいものとなるように願っています。NPOとして新たに市民会館の指定管理事業等の活動を始めて10年となります。私たちの郷土宇土市も今年生まれて60周年を迎えます。60周年を記念して7月には、子どもから大人まで楽しめる夢と冒險のアラビアンナイトを本会プレゼンツ事業として大ホールで公演し、市と連携して「秋川雅史コンサート」も開催します。市民会館事業として毎年地元中学生を招待している「本物の舞台芸術鑑賞」や「伝統芸能祭」等の自主文化事業、そして「UTO JAZZ」「宇土太鼓祭」等の連携事業、またNPO単独事業としてサロンコンサートも予定しています。

今後も会員の皆様のご支援の下、心地よく潤いのある心豊かな町の実現・地域文化の活性化に貢献できるよう頑張ってまいりますので、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

## 総会報告



平成30年度通常総会が5月19日(土)13時15分より宇土市民会館大会議室にて行われました。(会員数341名中、本人出席40名・委任状出席125名)

ご来賓の元松茂樹宇土市長からは「今年は宇土市市制60周年の事業として、大相撲宇土場所、秋川雅史コンサート、宇土に所縁のある坂井徳章さんの生涯を書いた「汝ふたつの故国に殉ず」作者門田隆将さんの講演会を予定しています。震災の心の傷を文化の力でリフレッシュして、これからエネルギーに変えてください。」と、西山宗孝県議からは「私も当初から会に関わり、現在もサポートの一員としてPRに励んでいます。文化の持つ平和・相互理解の力を大切にしたい。」とご挨拶いただきました。また、太田耕幸教育長にもご参列頂きました。

その後本田修議長、長光智法書記が選出され、平成29年度の事業・決算報告、監査報告と平成30年度の事業計画案・予算案が審議され、すべて承認されました。



NPO法人 宇土の文化を考える市民の会 宇土市民会館ホームページ <http://www.utobunka.jp>

事務局 〒869-0433 宇土市新小路町123 宇土市民会館内 TEL 0964-22-0188 FAX 0964-22-0189

■年会費納入のお願い 平成30年度の年会費納入ありがとうございます。

未納の方は、郵便局で振込まれるか、市民会館窓口でお支払い下さい。よろしくお願いいたします。 \*火曜日休館



## これからのこと業予定



### 第3回 ステレオコンサート 6月9日(土)13:30~

市民会館の大ホールロビーで開催するステレオコンサート。今年はなんと50年前の、業界の中ではオーディオ技術の最高峰と言われたステレオシステムを使って、第1部昭和の歌シリーズ（歌謡曲・演歌・ポップス・フォークなど）第2部童謡・叙事歌・民謡などをお聴きいただきます。

入場は無料です。

コーヒーコーナー（有料）もあります。お飲み物を召し上がりながら、懐かしい曲を懐かしい音でお楽しみください。



NPO 法人宇土の文化を考える市民の会プレゼンツ

### 人形劇団むすび座 7月15日(日)14:00~

#### 「アラビアンナイト～魔法のランプと明日のヒカリ～」

今年宇土市が市制施行60周年を迎える記念に、NPO 法人宇土の文化を考える市民の会が、大人と子どもで楽しめる大舞台用の人形劇を開催することに致しました。地域への還元事業としての公演ですので、大変お得な料金でご覧いただけます。ぜひこの機会に楽しい生の舞台を小さなお子様にも見せてあげて頂きたいと思います。チラシと当日精算券（大人用）を同封しています。子ども券、ペア（大人と子ども）券は市民会館ほかプレイガイドなどでお求めください。

(ものがたり)

魔法のランプを手に入れ、大金持ちになったアミン。

しかし、アミンは王様の怒りを買い、魔法のランプも家も財宝も、そして最愛の母親も何もかも奪われてしまいます。

「一番大切なもののなくしてしまった…」悲しみにくれるアミン。

アミンは再び立ち上がり、母ナシームを救い出すことができるでしょうか！？

城門が聞くとそこは賑やかで色鮮やかなバザール

摩訶不思議な老人、美しいお姫様、貧しい少年アミン

変幻自在なランプの魔人、不気味な骸骨剣士に空飛ぶ絨毯 etc…

人形劇という魔法で、勇気と知恵を届けます



人形劇団むすび座

1967年に名古屋で生まれ今年で半世紀。「子どもと子どもをむすびます。おとなとおとなをむすびます」との思いを持ち、数々の児童劇を創ってきました。

劇団員は42名。活動は東海地方を中心に全国にわたり、海外公演も行っています。

人形達が繰り広げるお話の世界を楽しみながら、子どももおとなも元気になる、そんなお芝居をたくさん創つて皆さんにお届けします。

チケット発売中



## 第16回うと歌謡祭 8月23日予選・24日決勝

今年も地蔵祭りの日に開催！

県内外から注目されるハイレベルな歌のコンテストです。

出場者募集は7月1日より行います。

詳しくは宇土市民会館ホームページや、広報うとに掲載いたしましたのでぜひご覧ください。応援もよろしくお願いします。



### 『平成28年熊本地震記録誌』 高木恭二

平成28年熊本地震から2年が経ちました。復興に向けての動きがやっと出てきたとはいえ、今なお避難生活をおくっておられる方々が、数多くいらっしゃいます。

宇土市民会館の施設も少なからずの被害を受けましたが、修理を行って少しずつ地震前の状態に戻りつつあります。

ところで、今回の地震では県内の多くの公立文化施設も被災しました。特に県央部の館の被害が顕著で、今なお復旧・復興の途上にあります。このような状況の中で、全国公立文化施設協議会は全国の公立文化施設から義援金を募り、その全額160万円を熊本公立文化施設協議会（会長 姜尚中熊本県立劇場館長）に届けられました。

県公文協ではこの募金をどのように活用するかということで会議がもたれましたが、その結果、宇土市民会館の提案で、この募金全額を使って熊本地震の記録誌を作ることに決まりました。

各館はそれぞれ設立年や、設立目的、規模、管理運営体制などが異なっており、また地震被害がどれくらいあり、被害にどのように対応したのかなどが本当に千差万別で、今後の各館の管理運営に参考になることが多くありました。

東日本大震災でも多くの被害が出て、各館の被害実体や対応内容についての記録はありますが、県全体でこのような記録誌を作成した県はなく、今回の熊本県が初めてでした。

平成30年3月に発行されましたのは、熊本公立文化施設協議会編の『平成28年熊本地震記録誌』で、県立劇場のホームページから全文をダウンロードし、自由に見ることができます。



宇土太鼓これからの100年プロジェクト

### 宇土太鼓祭～つなぐ～ 3月4日(日)

宇土に活動の拠点を置く、出演3団体〔宇土天響太鼓・太鼓芸能集団「紬衣」・宇土高校和太鼓部「鼓」〕の若手で構成した宇土太鼓祭実行委員会による運営で、テーマは「つなぐ」。太鼓祭を通して世代・団体間を越えたつながりを生み、宇土の太鼓文化をこれから次の100年へとつなげていこうという想いが込められた公演で、宇土太鼓を用いた新曲3曲含む15曲を演奏し、満席の客席からは大きな拍手が送られました。

太鼓祭は今回5回目の開催でしたが、1月には3団体の選抜メンバーがベトナム公演を成功させるなど、確実に宇土の太鼓文化発展に寄与しています。



### 第2回春の音楽の祭典 3月18日(日)

日本《和》と世界《ワールド》が音楽で繋がっていきますようにと願いを込めてテーマを「和とWAと輪」とし、合唱・吹奏の出演各団が日本と世界、また人と人の繋がりを意識した選曲で外国の民謡や映画音楽、テレビ番組の主題歌など様々な曲を披露しました。男声合唱のサプライズも大好評でした。

ゲストは、フラメンコ（林田紗綾）、箏（藤川いづみ）、ピアノ（志娥慶香）の異色コラボ「トリニティ」。昨年スペイン公演を大成功させ、凱旋公演と銘打っての迫力ある舞台に、お客様からは「フラメンコを始めて見たがとても素晴らしい」「ジャンルの違う3人の共演が面白かった」など満足の声しきりでした。

